



埼玉ソーシャルフットボール協会 ニュースレター 2020 シーズン版	2020年度 活動報告
2021年3月 発行	発行:埼玉ソーシャルフットボール協会 『埼玉カンピオーネ』

当協会の前身であった「フットサル大会 IN 埼玉実行委員会」が 2008 年から続けてきた、精神障がい者フットサル活動。ここ数年は、毎月のようにイベントを行っていたので、選手やスタッフの皆さんと直接顔を合わせて笑顔でハイタッチすることが、「あたり前」でした。それが 2020 年の今シーズンは、新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、活動を縮小・自粛せざるを得ない状況となりました。日常的な出来事が続けられなくなったときに初めて「あたり前」の大切さを感じました。「仲間と集うために移動して、出会って、一緒に空間を過ごすことは私たちには代えがたい」、そのことを実体験したことにより、当協会が活動を続けてきた意義を再確認することができた 1 年にもなりました。

この状況の中でも、各チームや選手の皆さんと協働して実施した取り組みなどを報告させていただきます。

◇◆2020シーズン・全体活動報告◆◇

精神障がい者を対象としたフットサル大会の企画・運営を中心に様々な活動を行ってまいりました。

開催日	主催等	内容
2020年5月 中止	運営協力	第13回スマイルサッカー大会 精神障がい者の部 開催は中止となりました
6月27日(土)	主催	2020シーズン埼玉ソーシャルフットボール協会 総会 会場:ZOOM 会議
7月26日(日) 中止	運営協力	サルさぼカップ 2020 開催は中止となりました。
10月31日(土)	主催	Sリーグ 2020 第1日程 会場:春日部市立市民体育館(春日部市)参加者:7チーム
11月28日(土)	主催	Sリーグ 2019 第2日程 会場:ウイングハット春日部(春日部市)参加者:6チーム
2021年4月17日(土)	主催	2021シーズン埼玉ソーシャルフットボール協会 総会 会場:ZOOM 会議

当協会のホームページはこちら 「 <https://www.ssfa-saitamacampione.org/> 」

◆◆コロナ過での運営委員会の取組み◆◆

令和2年4月7日、7都道府県に緊急事態宣言が発令され、同16日には対象が全国に拡大され未曾有の事態となりました。これまで活動を続けて10数年ですが、前例のないこの状況にどうしたらよいかかわからず、当協会の活動の企画検討は試行錯誤の連続でした。

フットサルは、競技としてソーシャルディスタンスを保つことはできませんし、基本的には屋内競技でもあります。選手もスタッフも委員もすべて、安心安全に生活を続けていくことが最優先されるなか、スポーツを含む余暇活動をどのように日常に位置づけていくかについては各々の価値観も異なります。そのため、話し合いを重ねていく必要がありますが、全国の公民館などの集会所が使用不可となるなど、顔を合わせる機会を持つことすらできなくなりました。

当協会では毎月1回、運営委員会を開催し、対面で様々な活動計画を検討してきました。それを今シーズンは全て、オンラインツールのZOOMを活用したWEB会議に切り替え、継続していきました。他にも、ZOOM交流会を開いて選手とも意見交換を行い、例年春に実施をしていた総会は6月にZOOMで開催しました。

緊急事態宣言が解除され、長い自粛に疲れてしまった皆さんに久しぶりにフットサルを楽しんでもらえるよう、7月には交流会を企画していました。しかし直前に県内の感染者が増加したことを受け、苦渋の決断でしたが直前で中止と判断しました。手探りの中、感染症対策を練って企画していましたが、準備不足も露呈しました。委員らが一堂に集まれないことで様々なほころびが生じてしまうことが、その時にわかりました。しかし、この経験があったからこそ「フットサルを楽しむためにはどのような感染症対策をするべきか」、「周りにどのように協力を得ることが必要か」など、細部に渡って十分な対応ができる体制を考えることができ、Sリーグの開催までたどり着けたのだと思います。 【担当 岡田】

◆◆Sリーグ2020シーズン◆◆

Sリーグ2020シーズンをコロナ禍というイレギュラーな中で2節に渡り無事に開催することができました。これはひとえに全ての参加者の皆様が感染予防対策に真摯に取り組んでくださった結果と言えます。

どうやったら安全にSリーグを開催できるかから始まった今シーズン。独自の感染症対策マニュアルを作成し、大会前後2週間の健康観察や、大会当日もフローチャートに則り「参加者全員で作り盛り上げていく」をテーマに進行しました。中止の選択よりも、ソーシャルフットボールを開催する意義の重さを改めて実感したシーズンとなりました。

大会結果

決勝リーグ [優勝] FREM F.C.

[準優勝] F.C.ORANGE

[第三位] S.F.C.Socio Tokorozawa

敢闘リーグ [優勝] 桜フェシリータ

[準優勝] F.C.cangiare

[第三位] F.C.Blast

得点王 平野選手(F.C.ORANGE)、小野寺選手(S.F.C.Socio Tokorozawa)

MVP 安武選手(FREM F.C.)

*Sリーグ結果詳細はアメブロ「Sリーグ第日程結果報告」をご覧ください



選手のインタビュー

平野選手

「私にとって S リーグは、目標であり、仲間との再会の場であり、年に1度のお祭りのようなものがあります。そのような場を守ってくださった、運営スタッフの皆様には感謝しています。私は、大変なときこそ何をすべきか問われると思っています。選手として、また開催したいと思われるようなプレーができるよう、練習頑張ります」

小野寺選手

「チームメンバーやサポーターみなさんのおかげでSリーグ得点王になりました。改めてありがとうございます。タイミングをずらしたトーキックや、ゴレイロからのロングスローを胸トラップしてのボレーが得意なプレーです。今年もコロナに負けず S リーグを盛り上げていきましょう！」

たつ選手

「去年の S リーグではコロナの影響で期間が短縮になりましたが、それでも開催していただいて感謝しています。優勝という結果もついてとても満足しています。個人でも MVP という賞もいただいて自信になりました。今年の目標はチームで連覇することです。そのために努力を惜しまないで頑張りたいと思います。」

【担当 佐藤】



◆◆大会運営にあたっての感染症対策◆◆

今シーズンのSリーグのスローガンを「参加者全員で作りを盛り上げていく」に定め、例年よりも縮小した全2日程で開催しました。大会実施にあたっては大きく以下の3つの感染症予防対策を行いました。

①独自の感染症対策マニュアルの作成
大会前、大会当日、試合中、大会後の全ての動きをフローチャートにまとめ、「Sリーグ 2020 シーズン感染症対策マニュアル」として事前共有しました。チーム代表

者を感染症対策責任者とし、チームで大会当日までに体調不良者が出た場合に大会責任者への連絡や参加可否の相談などの役割を担っていただきました。そして、大会前2週間から当日参加する選手、スタッフ全員に検温・体調チェックシートを配布し、大会場で毎日記入してもらい、持参してもらいました。大会終了後2週間以内に熱発等の体調不良者が出た場合の対応についても周知し、大会責任者に連絡する体制をとりました。

②大会形式の変更

例年3~4日程で行なっているSリーグですが、密になるのを防ぐため、試合数を見直し、今年は2日程、午前と午後の部に分けて実施しました。通常はコートも、両面2コート同時で試合をしておりましたが、試合は1コートのみ、もう1コートはアップ用のコートとし、アップ中はマスク着用としました。試合時間も通常10分ハーフ1試合20分で実施していましたが、7分ハーフ1試合14分に変更しました。その分ハーフタイムを長めにとり、手洗い・うがい・消毒をする時間としました。

③LIVE 中継の活用

今回Sリーグへの参加を自粛された皆様や会場での応援を控えた方々にも、試合を観ていただけるよう、YouTube Live を利用し、試合のLive 配信を行いました。自宅などから試合の空気感や熱気を少しでも感じていただけたかと思えます。初の試みということもあり、一部配信が止まってしまった場面もありましたが、今後の課題として生かしていきたいと思えます。

以上の感染症予防対策を徹底し、Sリーグ2020を開催することができました。

今回無事に大会を開催できたのも関係者のご協力があったることと心から感謝しています。運営スタッフがどれだけ感染対策を考えても、それを実行してくれなければ何の意味もありません。開催にあたって、大会の2週間前から毎日検温や体調チェック、大会中の手洗いうがいや手指消毒等、選手の皆様にもお願いすることも多く、負担が大きかったと思えます。しかし、それでもこの大会に参加し、マニュアルに沿った行動をしてくださったのは、参加者1人1人が当協会と一緒に活動を作り上げているという意識を持って参加してくれているのだと感じました。結果として、大会終了2週間経過後も体調不良者の連絡もなく、無事にSリーグ2020を終えることができました。

【担当 小木曾】



<S.F.C. Socio Tokorozawa>

コロナ禍、不安な気持ちもありましたがチーム・サポーターみんなで話し合いを重ね「うつさない・うつらない」を合言葉に【練習中も含めたマスク着用・除菌グッズの携行/使用】などをソシオルールとして、徹底した感染対策で活動しました。また、ウェブミーティングも積極的に活用してチーム内のコミュニケーションもアップ！チーム・サポーターの『絆』が深まったソシオ所沢は今シーズンもチームワーク抜群！勝ちに行きます！

<FREM FOOTSAL CLUB>

ふれむは今シーズン最大の目標だった S リーグ優勝を果たしました。しかし内容は薄氷の勝利だったのでチームの意識としては来シーズンは強い勝ち方をしたいというのがあります。今シーズンはコロナの影響もありあまり練習もできていなかったり S リーグも試合数が少なかったのでチームとしての経験値を積みなかったのもあると思います。来シーズンも制約があると思いますが工夫をして S リーグ優勝を目指します。

<Breezers>

我々Breezers は今シーズンはコロナ禍で予選を通過したものの感染対策のためにチームとして決勝リーグを辞退しました。この悔しさをバネに、来シーズンは優勝狙って頑張ります。

<桜フェリシータ>

デイケア活動の一環として継続してきたフットサル。「フットサルをやりたい」から「Sリーグで勝ちたい」と気持ちが変わり、新しい生活様式に沿いながら優勝を目指して活動してきました。その形は今年も変わらず、選手それぞれが生活の基盤を確立しながら、フットサルを通して楽しみややりがい、仲間と頑張る時間の共有を図る機会となるよう継続して活動していきます。

<F.C ORANGE>

今シーズンは、第 2 位と今までの F.C. ORANGE の成績からするととてもよい結果で、今まで練習してきた積み重ねが少し出たのかなと正直に嬉しい気持ちになりました。試合内容も皆とても頑張っていたと感じています。コロナ禍で今後がどうなるのかがとても不安ですが、コロナ禍でも出来る限りの練習は続けて来シーズンに挑めたらなと思います。

<F.C.cangiare>

F.C.cangiare の今年を振り返ると、殆どオンライン飲み会をしていた気がしますが、それだけ活動や世の中が大変だったということも物語ってます。もちろん練習も新たな練習場を見つけられて、活気付きもしました。来年は、新しいメンバーを迎えたりして、新たな練習場で、時に楽しく、時に真剣に盛り上がっていきたいと思います。試合前の円陣の仕方も模索して行きたいです。

<F.C.Blast>

今シーズンはコロナ禍の中、またメンバーも就労等の関係で思うように揃わず、練習場の確保もままならない状態でスタートしました。ただ、他チームのメンバーの皆様のご協力により練習も再開でき、また、F.C.川口のメンバーをチーム員として受け入れることができ、リーグ戦に望むことができました。

結果は、昨年よりもふるわないものでしたが、昨年度よりも、リーグに溶け込めた気がしています。来シーズンは、今シーズンと同様厳しいスタートとなりそうですが、リーグに皆様と一緒にいれば、何とかなる！皆様に甘え、励まされながら、切磋琢磨し、チーム力を上げていきたいと思っております。

◆◆Sリーグ参加選手からのメッセージ◆◆

【Sリーグを通して】桜フェリシータ H.Rさん

僕は小学生の時4年間サッカーをしていましたが、数十年サッカーから離れていました。デイケアでフットサルを始めて、Sリーグも今年で5年目です。Sリーグ当日は毎年体調面もあり苦しい思い出ばかりですが、大会が終わるといろいろなものから解放され、大会終了後に行う仲間との「お疲れ様会」はすごく楽しみです。Sリーグに参加するようになりフェイントとドリブルの練習を毎日取り組むようになりました。「誰よりも速くその先へ」という思いから主にダブルタッチとカットインの研究と練習を夢中になって行い、1年半が経ったところから試合でも繰り出せるようになりました。これからもフェイントが好きなのでこれからも毎日追及していきたいと思えます。Sリーグ3年目にはキャプテンもやらせてもらいました。皆と練習メニューを考えたり反省会を行うのはすごく楽しかったです。キャプテンという責任を果たせたことは今でも自信に繋がっています。【担当 金子】

【私にとってのSリーグ】Breezerz 堀部 真由美さん

私が所属するチーム Breezers は練習の成果が出て、Sリーグ 2020 シーズンでは 2 勝 1 敗で予選を通過し、決勝リーグに進出できることが決まった。しかし、大会にかなり近づいた日に選手全員に召集がわかり、コロナ感染防止のために決勝リーグをチームとして棄権することを聞かされた。

選手も落胆したが、選手が練習を通してメキメキ上達していくのを喜んでいたスタッフが一番つらかったと思う。

Sリーグの決勝は予定通り行われたので、他チームが優勝したことを後で知らされた。コロナさえなければ、と大変悔しかった。

Sリーグに出たくてフットサルを始めたメンバーがいたり、私自身 Sリーグで活躍したくて朝のジョギングを始めていた。だから棄権は納得していても悔しかった。

しかし、そういった事態が Breezers に困難に負けない精神力を与えてくれたようで、今日もマスクをつけたままではあるがボールを追いかけて楽しそうに走っているのだ。

「絶対コロナに負けないぞ。」

【担当 前原】

◆◆女子フットサルの紹介2020◆◆

2020年12月6日(日)、春日部ウイングハット体育館にて嶋村みどり選手(元 Espacio)が主催する女子フットサル交流会が開催されました。

除菌などの感染症対策をしながら、女性選手 9 名と男性選手がサポーターとして参加し、パスやシュート等の練習やゲームを行いました。日本ソーシャルフットボール協会の佐々理事長もお見えになり、みんなで楽しみました。

この交流会は 3 年程前から開催をしており、「女性選手の輪を広げていきたい」、「男性に負けないプレーヤーになってほしい、なっていきたい」「女性選手が活躍をしていけるようにしたい」等の思いから、協力をしながら進められてきたことを教えていただきました。

月 1 回の開催予定で来年度は他県の女性選手との交流等、工夫をした取り組みも考えられているようです。参加資格は「女性であること」。

埼玉ソーシャルフットボール協会としても応援をしていきたいと思っています。皆様もぜひ参加をしてみてください。【担当 大澤】



2020 シーズンを振り返って 運営委員より

⊕今シーズンからは遠方地からの参戦となりました。同じ時と場を共有するって、大切ですね
💡心底感じました！ 来シーズンこそ、みんなでハイタッチしましょう！！

岡田 隆志

⊕魂と魂のぶつかり合い… これまでも…そしてこれからも！！

前原 佑紀

⊕運営委員としてもチーム監督としてもフットサルについて多くのことを考えるきっかけになったシーズンでした。2021シーズンは実行に移すシーズンにしたいです。

金子 力

⊕フットサルができず、苦労した一年でした。フットサルの魅力は激しい戦いも楽しいですが、いろいろな方との交流が素晴らしいと思います。

野村 忠明

⊕家族が増え、ほとんど参加できない1年になってしまいました。新たなメンバーが頼もしく感じる1年でした。来年こそみんなでボールを蹴りたいです！

鎌田 恒一

⊕フットサルの楽しさ、人との繋がりや温かさ・優しさを改めて感じる事ができた
2020シーズンでした。ありがとうございました！！

大澤 美礼

⊕今年度から運営委員として携わらせていただきました。来年度はもっと精進していきたいと考えています。よろしくお願いします！

有賀 千亜希

⊕2021年が充実したシーズンとなるよう皆さんと共に頑張りたいと思います！

小木曾 祐介

⊕今シーズンから運営に携わるようになり、カンピオーネの存在は大切な居場所だと改めて感じました。

佐藤 京子

⊕今年度から運営委員になりました。短い期間の開催でしたが、選手皆さんの顔が見て元気が出ました！！2021年もよろしくお願いします！！

(編集)赤間 未歩

<編集後記>

2020シーズンは、新型コロナウイルス感染症のために、いろいろ大会などを開催しなかったのですが、思うように開催できない厳しいシーズンとなりました。大会運営に当たっては、感染症対策を行いながらの大会運営となり、今までになく対策を考えての大会開催となりましたが、感染者も出なかったのも、たいへん安堵した感じです。2021シーズンも、感染症対策を徹底して、大会運営を行います。フットサルや仲間と会って会話を交わすことが楽しく、ですが大会では、全力をお互いにぶつけあって戦う素晴らしさを味わいたいです。ソーシャルフットボールの活動を通して、元気に回復していく人たちが、たくさん出てきてくれることを願い、活動に参加しています。みなさん、応援のほど、よろしくお願いします。【担当 野村】